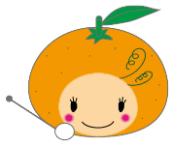
三重県立看護大学附属看護博物館　企画展



本学キャラクター「みかんちゃん」

「量る・測る・計る ― 教科書と看護器具でたどる＜はかる＞技術の歩み」

本学附属看護博物館は、大学開学 15 周年記念事業の一環として、県内各地の皆様からご提供いただきました看護に関する貴重な資料をもとに、平成 24 年5月8日に開設しました。

このたび、附属看護博物館第8期展示として、「量る・測る・計る ― 教科書と看護器具でたどる＜はかる＞技術の歩み」と題し、戦前から現代にかけて、「はかる技術の変化が、看護師に求められる専門性や人間理解をどのように変えてきたのか」を問いかける展示を企画しました。

本展示では、教科書と器具の対話を通して、「はかる技術の変化が看護をどのように変えてきたのか」をたどります。どうぞ、数字の向こうにいる人の姿を想像しながらご覧ください。

≪展示内容≫

【展示ケース1】 どのように計測値を判断するか～赤ちゃんの体重測定～

・19 世紀後半から発展してきた乳幼児体重計の変遷と、教科書の記述の変化を紹介します。

【展示ケース2】 明治期から戦前・戦中の教科書

・明治期から昭和初期にかけての医学・看護教科書を紹介します。
・血圧測定がまだ難しく、慎重な扱いを要する技術であった時代を紹介します。

【展示ケース3】 血圧測定用具/制服・ユニフォーム

・血圧測定用具の変遷や、乳児体重測定に用いられた分銅秤を紹介します。
・看護婦学校制服 （昭和7～8年）
当時の宇治山田市医師会附属内務省指定私立三重看護婦学校のものです。

【展示ケース4】 戦後直後と高度経済成長期の教科書

・戦後の教科書に「体温測定」や「血圧測定」がどのように書かれているかを紹介します。
・医療の発展に伴い、看護婦に求められる役割がどのように変化してきたかをたどります。

【展示ケース5】 器具の小型化・電子化・多機能化

・体温計・体温測定の歴史を紹介します。
・自動血圧計、パルスオキシメーターなど小型化、電子化された現代の測定機器を展示しています。